



しらべよう!  47都道府県

きょう とう はつ てん
郷土の発展に
つくした先人

◀ 監修 北俊夫 ▶

さんぎょう
⑤ 産業

この本を読むみなさんへ

監修 北俊夫先生より

みなさんが住んでいる都道府県で、かつて郷土や国の発展のために活躍した先人に、どのような人がいたか知っていますか。先人とは、わたしたちが生まれるまえに生きていた人たちのことです。とくに、並々ならない苦心や努力によって、人びとの苦しみをとりのぞき、生活を豊かにしたり、社会の発展のために貢献したりした、すぐれた人のことをいいます。

このシリーズでは、「開発」「教育」「医療」「文化」「産業」の各巻で全都道府県の先人47人を紹介しています。そのうち、とくに10人について大きくとりあげ、くわしく説明しています。先人のなかには、生まれ育った地域だけでなく、ほかの地域にうつりすみ、日本各地で広く活躍した人もたくさんいます。先人は新しいことをおこなうとき、今のわたしたちには想像できないほどの苦心や苦勞をのりこえ、さまざまな工夫や努力を積みかさねています。先人が残した業績から、これからの生き方を考えるヒントを得ることができるでしょう。

住んでいる都道府県の、たとえば産業につくした先人についてしらべたあと、「ほかの都道府県には、地域の産業につくしたどのような人がいたのだろうか」という疑問をもって、さらに読みすすめていくと、視野を日本の国土全体に広げることができます。また、「都道府県内には、産業以外の開発、教育、医療、文化の分野で、地域の発展につくした人はいないのだろうか」といった課題意識をもって、ほかの巻をしらべていくと、自分たちの都道府県で活躍したさまざまな先人について知識をふやすことができます。

先人にかかわる記念館や資料館、銅像や石碑などを見学したり、本やインターネットでくわしくしらべたりすると、学びがさらに深まりのあるものになります。

本シリーズ全体で、「開発」「教育」「医療」「文化」「産業」の各分野について、235人の先人が紹介されています。この本を読んで、先人の名前と業績をすべて結びつけることができれば、あなたは「先人ものしり博士」です。ぜひ挑戦してください。

もくじ

青森県 菊池楯衛 6

青森をリンゴ王国へとみちびいた

埼玉県 渋沢栄一 10

日本経済の
土台をきずいた実業家

東京都 相馬黒光 14

新宿中村屋をつくり
食文化と芸術を広めた

静岡県 山葉寅楠 18

浜松を楽器の町にした
ヤマハの創業者

愛知県 豊田佐吉 22

世界一の性能をもつ
自動織機を開発

三重県 御木本幸吉 26

世界で初めて
真珠の養殖に成功

奈良県 土倉庄三郎 30

土倉式造林法で
吉野の林業をさかんにした

島根県 広田亀治 34

イネの選出をくりかえし
亀治米を開発

福岡県 井上傳 38

伝統的な綿織物
久留米緋の創始者

大分県 油屋熊八 42

別府の町を
有名な温泉観光地にした

見つけよう！ わたしたちの郷土の **パイオニア** 46

北海道 川田龍吉 / 岩手県 大島高任 / 宮城県 宮城新昌 / 秋田県 井坂直幹 / 山形県 佐藤栄助 / 福島県 片寄平蔵 / 茨城県 小平浪平 / 栃木県 仁井田一郎 / 群馬県 高山長五郎 / 千葉県 田中玄蕃 / 神奈川県 山口仙之助 / 新潟県 屋井先蔵 / 富山県 水野豊造 / 石川県 藻寄行蔵 / 福井県 増永五左衛門 / 山梨県 高野正誠 / 土屋助次郎 / 長野県 代田稔 / 岐阜県 水野利八 / 滋賀県 加藤辰之助 / 京都府 島津源蔵(初代) / 大阪府 広岡浅子 / 兵庫県 小林一三 / 和歌山県 上山英一郎 / 鳥取県 北脇永治 / 岡山県 大原孫三郎 / 広島県 三浦仙三郎 / 山口県 小幡高政 / 徳島県 海部ハナ / 香川県 野網和三郎 / 愛媛県 阿部平助 / 高知県 吉井源太 / 佐賀県 真崎照郷 / 長崎県 松田雅典 / 熊本県 松本清記 / 宮崎県 野中金右衛門 / 鹿児島県 園田兵助 / 沖縄県 宮城鐵夫

この本のつかい方 4

失人しらべにチャレンジ!

記念館や資料館へいこう 53

しらべたことをまとめよう 54

先人しらべワークシート 55

さくいん 57

この本では、つらい思いをしている人びとの問題を解決にみちびいたり、新しいことをなしたりした先人を紹介しています。先人たちがどんな願いをもち、どんな工夫や努力をしたのか、それにより地域はどう変わったのかに注目して、その生涯をたどりま。

どうやって？ 先人の工夫・努力

先人たちは、どうやって、またはどんなふう
に、目標にとりくんだのでしょうか。先人
が偉業をなしとげるためにおこなった、「工
夫・努力」を見つけましょう！

それから？ 先人の行動による変化・発展

先人たちが偉業をなしとげたことによって、
人びとの暮らしにどのような「変化」がおこっ
たのでしょうか。また、郷土や国の「発展」
に結びついたことを見つけましょう！

Q
どうやって
別府温泉の名を
広めたの？

A
たくさんの
新しいアイデアで
宣伝したんだ

飛行機からチラシをまいて宣伝

別府を全国の人知ってもらうため、龍八は入びとをびくびくさせる、おもしろい宣伝を考へて実行しました。1925(大正14)年に、「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」という、おぼえやすい5文字の宣伝文句を考えだし、この言葉を書いたチラシを、富士山の山頂付近に落としました。

また、1927(昭和2)年に天候の悪化で「白雲結八雲」をきめる設置がおこなわれたと、別府の前の入たちにはガキを配って設置してもらい、別府をこの1位にさせました。さらに、飛行機をつかって天候の悪化おらのチラシをまいたのです。

別府の町を温泉テーマパークに！

龍八のアイデアは、つきません。1928(昭和3)年には、白茶で初めて、バスガイドをさせた観光(バス)の運行を始めました。そして、地獄とよばれていた温泉の源泉地をまわる、「地獄めぐり」を考え出したのです。このツアーは、たいへん人気となりました。温泉マークをつくり、別府温泉のシンボルにして広めたのも龍八です。

別府には大きな新旅館が入る場がありませんでした。おとずれおきおきさんは、岸にとまった新旅館から、はしけといわれる小さな船のりかえて上陸していたのです。龍八は、「大げなお客さんに、そんなあふないことをさせてはほいけません」と考えました。そこで龍八は、船を運送する会社に直接のりこまさせることに成功しました。おかげで、別府をおとずれるお客さんが増えたのです。

龍八は、開業から13年たった1924(大正13)年、電の井筒館をつくりおとずれ、洋館の電の井筒館につくると考え、別府から長崎までつなげる道路をつくることを提議します。このアイデアは、今の九州横断道路(やまなみハイウェイ)の原型になったものでした。

Q
それから
どうなったの？

A
日本を代表する
温泉地に
なったよ



今も愛される龍八

入をびくびくさせる龍八のアイデアによって、別府の町は白茶を代表する温泉地へと発展してきました。

龍八は、別府を観光地として宣伝するとき、その費用を自分のお金と借金でまかしていました。そのため、龍八が亡くなったあと、持っていたホテル(バス会社)は、借金を返済するために売られてしまいました。しかし、地獄の入りびとによって、龍八が別府を発展させた恩人であることには変わりありません。龍八は「別府観光の父」とよばれています。

今、別府駅の駅前広場には、龍八の銅像が立っています。

別府には温泉の源泉地がたくさんあり、つねに源泉が湧いている。

ます、両手を広げて実をうかせる龍八のマントに、地獄の小鬼がみついているという、ユーモラスな銅像です。これは、英国からおりてきた龍八が、入びとよびかけている家なのだそうです。龍八は今も、別府をおとずれる観光客をもてなしてくれているのです。

もっと知りたい！ 学習者のアドバイス

大分県別府市には、個人が集めた別府温泉の湯を5000番ありと集めている「湯の資料館」があります。別府から龍八にとられた別府の写真を集めて、今とちがうところや、同じところを写すつづけてみるのもいいでしょう。ポスターや地図、昔の日用品なども展示されています。

別府市の別府公園には、龍八の遺骨を伝える「湯島龍八墓の記念碑」があります。旧別府駅には銅像もあつちます。

湯島龍八墓の記念碑
大分県別府市別府1-1-1 別府公園内

龍八を龍八
アクリル、木の湯島龍八の遺骨を再現した。別府の温泉マークのデザインも龍八がしたよ。

湯の資料館
〒874-0244 大分県別府市別府1-1-7 別府公園内

大分県別府市別府1-1-7 別府公園内

学習を広げる
アドバイス
もっとくわしく知りた
いときのために、見学
できる施設や、先人に
かんれん ほん しょうかい
関連する本などを紹介
しています。

マークをチェック！

- 記念館や資料館などの施設についてみよう。
- 銅像や記念碑、お墓をたずねてみよう。
- 先人の伝記など関連する本を読もう。
- 新しい情報を知ろう。

橋衛が植樹した弘前城のソメイヨシノ

弘前城にはソメイヨシノが約2600本あります。枝がたくさくはがり、葉は花、葉は葉、秋は紅葉と、美しい景色があられます。この風景は、荒れはた城内を見かねた橋衛が、ソメイヨシノを植樹したことから始まりました。橋衛が植樹した木は、今も1本だけ残っています。弘前城のソメイヨシノは、リングの特定技術によって手入れされています。

先人の業績や人柄を伝えるエピソードなどを紹介しています。

施設にいくときに気をつけること

- いくまえに、開館日と開館時間をかならずしらべましょう。
- 入館料がかかる施設もあります。
- 事前に予約が必要な施設もあります。
- 大人といっしょにいきましょう。

先人しらべにチャレンジ!

→ 53 ページ

各巻にひとつずつ、全部で5つのしらべ方を紹介しています。

記念館や資料館へいこう

1巻 開発 地図帳をつかおう

2巻 教育 図書館でしらべよう

3巻 医療 インターネットでしらべよう

4巻 文化 銅像&記念碑をさがそう

5巻 産業 記念館や資料館へいこう

ぜんぶの巻を
みえてみてね!

おおいた
大分

センジンファイル 198

あぶら や くま は ち

油屋熊八

べっぶ まち
別府の町を

ゆうめい おんせんかんこうち
有名な温泉観光地にした



1863~1935年

出身地

えひめけんうわじまし
愛媛県宇和島市



バスガイドとならぶ油屋熊八(中央)。別府温泉は、温泉の源泉(わきだしている場所)の数や、温泉が出る量が日本一だ。油屋熊八は、別府を有名にするために、さまざまな工夫をした。源泉地をバスでまわる「地獄めぐり」もそのひとつ。バスには女性性のバスガイドがのり、観光客に源泉地の見どころを紹介した。

Q

どうして

別府温泉を
有名にしようと
考えたの？

A

人を喜ばせる
ことをしたかった
から

ぜんざいさん うしな てんさいそう ばし 全財産を失った天才相場師

油屋熊八は1863年、今の愛媛県宇和島市に生まれました。家は裕福な米問屋で、熊八は何も自由なく育ちます。時代が明治に変わり、議会が始まると、27歳で町議会議員に選ばれました。

ところが、父親が亡くなると30歳で家をとびだし、大阪で相場師(さまざまな商品を売り買いし、お金をもうける人)を始めました。熊八は米の売り買いで大もうけして、「油屋将軍」というあだ名までつきました。

しかし、1895(明治28)年に日清戦争が終ると、世の中の景気が悪くなり、熊八は売り買いに失敗して全財産を失ってしまいました。

ほうろう ベっぶ アメリカでの放浪から別府へ

熊八は35歳のとき、心機一転、ひとりでアメリカへわたります。とくにいくあてもなく、各地をまわって旅をしました。そのとき、キリスト教の聖書に書かれた「旅人はねんごろ(ていねい)にもてなせ」という言葉と出会います。熊八は、これからはお金もうけよりも、人を喜ばせることをしようと考えるようになりました。

約3年後の1900(明治33)年、帰国した熊八は、大分県別府町(今の別府市)をたずねました。当時の別府町は、温泉地として少しずつ名が知られるようになってきたところでした。



熊八が別府に建てた亀の井旅館にはぎわい、のちに亀の井ホテルとなる。別府をおとずれる人たちに最高のおもてなしをした。

町中には、まだ日本ではめずらしかった路面電車が走り、大都市の大阪との間には、旅客船が定期的に行き来していました。熊八は、別府の町も温泉も気に入りました。

かめ いりよかん おもてなしの亀の井旅館

「ここで旅人のおもてなしをしよう！」

別府駅が開業し、町に鉄道が通った1911(明治44)年、そう考えた熊八は、小さな旅館を始めました。旅館は、「亀の井旅館」と名づけました。木造の2階建てをつくりなおした、そぼくな建物でした。

熊八は、おいしい料理と清潔なふとんで、お客さんをもてなしました。また、お客さんが安心してすごせるように、旅館に看護婦(今の看護師)を待機させるようにしました。救急車がない当時、看護婦がいることは、お客さんにとって心強いことでした。

亀の井旅館はたいへん人気になりました。しかし、熊八の夢は、もっと大きいものでした。

「別府を、日本一の温泉観光地にしたい！」

み
見つけよう!
わたしたちの郷土の

さん ぎょう
産業

パイオニア

きょうど さんぎょう はってん せんじん ぜんこく
郷土の産業を発展させた先人は、全国にまだま
だたくさんいます。先人たちの活躍のようすを
見ていきましょう。

ほっかいどう
北海道

かわ だ りょうきち
川田龍吉

センジンファイル 199

1856~1951年
出身地 高知県高知市

だんしゃく う おや
男爵イモの生みの親



写真: 男爵倶楽部

川田龍吉は、造船技術を学ぶため、22歳のときにイギリスへいき、ジャガイモを食べて、そのおいしさを知りました。帰国して三菱製鉄所や日本郵船につとめたのち、51歳で函館にうつると、造船業のかたわら、農業を始めます。外国から種イモをたくさんとりよせ、短い期間で収穫できて味のよい品種のジャガイモを育てました。このイモは、当時の龍吉の身分にちなんで「男爵イモ」と名づけられ、全国に広まりました。

川田龍吉は、造船技術を学ぶため、22歳のときにイギリスへいき、ジャガイモを食べて、そのおいしさを知りました。帰国して三菱製鉄所や日本郵船につとめたのち、51歳で函館にうつると、造船業のかたわら、農業を始めます。外国から種イモをたくさんとりよせ、短い期間で収穫できて味のよい品種のジャガイモを育てました。このイモは、当時の龍吉の身分にちなんで「男爵イモ」と名づけられ、全国に広まりました。

いわて
岩手

おおしまたかとう
大島高任

センジンファイル 200

1826~1901年
出身地 岩手県盛岡市

てつ りょうさん せいこう
鉄の量産に成功した
“日本近代製鉄の父”

大島高任は江戸(東京)や長崎で学び、反射炉で大砲をつくりあげましたが、砂鉄を原料とした鉄をつかったため、品質に問題がありました。1858年、釜石に日本初の高炉を建てます。高温で鉄鉱石を溶かすことで、炉外に鉄が流れだし、良質な鉄を連続生産することに成功。近代的な製鉄技術の土台をきずきました。



写真: 釜石市立鉄の歴史館 提供

みやぎ
宮城

センジンファイル 201

みやぎ しんしょう

宮城新昌

1884~1967年 出身地 沖縄県国頭郡大宜味村

カキを育てる垂下式養殖法を開発



宮城新昌はアメリカでカキの養殖を学んだのち、帰国してみずから「垂下式養殖法」を考えだしました。石巻市の万石浦がカキの養殖に適していると見定め、大規模なカキ養殖を始めます。カキは宮城の特産物になり、新昌の養殖法は世界に広まりました。



写真: 三養水産

あきた
秋田

い さかなおもと
井坂直幹

センジンファイル 202

1860~1921年

出身地 茨城県水戸市

のしる もくざいさんぎょう
能代の木材産業を
東洋一に発展させた

井坂直幹は、近代化がおくっていた能代で、製材の機械化をめざしました。木材会社をつくり、工場を建ててイギリス製の最新式の機械をとりいれます。会社は発展し、全国に支店を広げ、能代は“東洋一の木都”とよばれるようになりました。また、井坂奨学会をつくって、能代の人びとの教育をささえました。



写真: 能代市教育委員会

やまがた
山形

さとう えいすけ
佐藤栄助

センジンファイル 203

1867~1950年

出身地 山形県東根市

さとうにしき う おや
佐藤錦の生みの親

東根市では明治時代の初めごろからサクランボを栽培していましたが、雨に弱く日もちしないため、生産量はふえませんでした。佐藤栄助は、かたくてすっぱい品種「ナポリオン」と、あまいけれど日もちしない「黄玉」をかけあわせ、15年あまりをかけて「佐藤錦」を誕生させました。名づけ親でもある友人が苗木を広め、山形の特産物になりました。

